

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	ウッドプラスチック製敷き板Wボード	担当部署	技術開発部
NETIS登録番号	CG-150003-A	担当者	浜田 尚孝(営業担当 三浦・山内)
社名等	(株)ウッドプラスチックテクノロジー	電話番号	03-58444-3366
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来技術としては、工事現場の養生には敷き鉄板が用いられている。敷き鉄板は4×8サイズ(1.2m×2.4m)で1枚あたり約510kg超と重いため、運搬に要する車両が多く必要であり、設置にも重機が必要である。このため、運搬用トラックのドライバー、現場の作業員不足が課題となっている。また、敷き鉄板に挟まれる事故が発生するなど安全性の問題や車両走行時の騒音発生の問題もある。重量物のため、敷き鉄板の製造や運搬における二酸化炭素排出が多いという環境面の課題もある。新技術をもってこれらの課題解決に取り組んだ。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>新技術の製品重量は39kgと敷き鉄板より92%軽量化されており、10t積載のトラックで従来技術では19枚しか運べないところ、新技術では250枚を一度に運べる。このため、運搬コスト、運搬に伴う二酸化炭素排出量を削減できる。また、設置についても、重機が不要であり普通作業員が人力で設置できるため、コスト削減、工期短縮が可能である。 新技術は樹脂製のため、地面になじむ柔軟性があるため、敷板の下に空間があるような場所(側溝のふたとしての使用)では使用できない。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>敷き鉄板は重量が重いため、取扱いが危険であり、また運搬費用が高く二酸化炭素排出量が多い。Wボードは重量39kgであり、同サイズ(4×8)の敷き鉄板は510kgに比べて軽量である。このため工事現場での騒音が軽減でき、一度にたくさん運べるため運搬時の燃料消費が少なく、コストダウン、環境負荷低減の効果がある。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>①適用可能な範囲 ・公共工事全般の仮設工事(地盤強度N値2以上の道路・歩道・資材置場等の養生)</p> <p>②特に効果の高い適用範囲 ・敷き鉄板を敷設するための重機が入れない現場 ・敷き鉄板により傷つきやすい芝生やタイルなどの下地の養生 ・短期間で設置、撤去が必要な現場</p> <p>③適用できない範囲 ・最大積載車両重量25tの場合は、表層地盤N値8未満 最大積載車両重量10tの場合は、表層地盤N値8未満 最大積載車両重量4トラックの場合は、表層地盤N値2未満 クローラー式の建設機械の場合は、表層地盤N値2未満 ・幅員1,219mm未満 ・長さ2,438mm未満 ・側溝や段差など敷き板の下に空洞のある現場 ・アウトリガーの敷き板としての使用不可 ・製品上でのたき火等の火気使用不可 ・鉄製キャタピラーでの敷き板上での旋回不可</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 0 件 (九州 0件、九州以外 0件) 自治体 20 件 (九州 0件、九州以外 20件) 民間 7 件 (九州 0件、九州以外 7件)</p>		

6. 写真・図・表

工事写真



製品外観図

